

◆ H30.11.20発行 発行元:NPO法人わの会 住所:府中市住吉町1-60-10 TEL/FAX:042-360-3626 ◆



コスモスツアー



びわ狩り



神代植物公園



うたごえの会



ごあいさつ



平和公園にて(広島)

この9月、私は難病ALSを発症以来念願の広島平和記念館訪問を実現しました。もっと早く子供たちと行きたいところであったがALS という難病患者にとって、とても遠いところに思っていた。幸い若い学生3人が私のヘルパーを買って出ってくれたので彼らとの同行が未来につながるような気持ちになった。みなさんにご協力いただいた千羽鶴と共に、無事行ってくることができた。帰りに母の13回忌で故郷の香川、さぬき市に。13年ぶりに身内の温かさに触れ、4人の幼馴染に会い昔話しに興じた。

東京に帰ってすぐ、学校公演を2か所終え、10月15日には六本木で武藤将胤さんと対談。彼はテクノロジーでALS の未来を切り開こうという32歳の頼もしい、ALS患者。彼からは介護事業所の創設と運営についての質問があった。11月に入り一息ついているところですが、そばから「私たちの介護事業所も火の車よ」との事務局長(妻)の叱咤あり、まだまだ頑張ります。

特定非営利活動法人 **わの会**

府中市住吉町1-60-10

TEL:042-360-3626

わの会HPはこちら→



【5つの事業】

- ①府中自立支援ネットワークわの会(自立支援)
- ②デイサービスりんりん(地域密着型通所介護)
- ③重度訪問介護従業者養成研修講座(研修事業)
- ④ヘルパーステーションあいあい(訪問介護)
- ⑤わの会相談支援事業(相談事業)



2018年度上半期総括

府中自立支援ネットワークわの会は、障害や高齢、社会的立場の弱い当事者の助け合いや支援を行っています。近年、ミニデイを中心とした活動の活性化が図られ、2018年度上半期総括に於いては「その成長」が明らかです。

プログラムの開催数が増え、利用会員が増え、協力会員も増えています。ただ増えているだけではなく、プログラムの趣旨に沿った活動(ミニデイ＝当事者の外出機会の創設、仲間との語り合い、独りではない楽しい食事、など)が多く実施されるようになりました。

一方で求められるものが、拡大する活動に見合った運営体制です。 ▲ミニバスハイク(川越)

スタッフより、コーディネーターとして場を切り盛りする力や相談に乗る力が必要であるとの意見が出されています。わの会の特徴である当事者が運営委員に加わっていることを活かすことや、三役会議を有効に行うことも課題です。そして、運営の予算的根拠を明確にみんなで納得のいくやり方をこれまで以上に検討していかなければなりません。

下半期に向けて、活動を充実させていくとともに、運営の質の向上と、予算を考えた利用料の整備改善に取り組みます。



▲ミニバスハイク(川越)

みんなの声



働いていた頃の職場の後輩に会えてうれしかった。息子さんも障害をかかえておられる方でした。



食事会。人数が多いからと2日に分けたけど、ギュッとつまってもみんなに会いたいから1回で、大勢でやれないかな。紅白に座りたいです。



▲新春の集い



▲絵手紙教室



ミニバスハイクで川越に行きました。遠出の外出ができなくなってきているのでみんなで、外出できるのが嬉しいです。今後はどこに行こうかな～。楽しみが増えそうです。



利用者さん、スタッフにいつも元気を貰ってます。行事等に参加した全ての事が私には勉強になっています。皆さんが支えあっている所が大好きです。



利用者本位の生活づくり、リハビリ活動について



▲棒体操

りんりんでは生活リハビリの中で日々の使用する道具は、道具名を明記したり作りかけの物はそれ用の箱を用意したりと、これまでのやり方に利用者様が動きやすいように工夫したところ、自ら作業準備を行い自身で鉾から取り出す姿がだんだんと増えてきている。これまでのスタッフは、先回りして手を貸していたが、利用者様の持てる能力を生かし切れていなかったのではと反省している。環境を整えることで、利用者

様の能力を生かし主体的な動きをつくり、それぞれの方の生活にも生かしていけることを改めて感じている。りんりんでは、体力向上や体力の維持を保てるように毎日プログラムを作成し実施している。

棒体操や、ボール体操、立ち上がり訓練などこれまで以上に時間を取り、楽しくとりくめる工夫などもし利用者様も楽しみながら参加でき、体力維持の効果がはっきりと読み取ることができる利用者様が増えて

いる。
下半期は、この課題を1人でも多くの利用者様が目的に近づけるようにさらに、努力を重ねていきたい。

りんりんの主なリハビリ

生活リハビリ	お菓子作り 調理
脳トレ	クイズ、ゲーム
手工芸	作りたい作品を選択する
可動域訓練	棒体操 ストレッチ
筋トレ	ボール体操 筋力向上体操

地域との交流をめざして

● 上半期の取り組み

6月 第8中学校の職業体験（2名）

8月 納涼祭

9月 神の島神社のご例祭

● 下半期の予定

10月5日 四谷自治会のバザーに参加

10月26日 四谷小学校視覚障害者体験学習

11月24日 もちつき大会



▲職業体験で同行してくださった中学生たち

～上半期の以上の取り組みの中で～

お祭りでは神輿、太鼓がりんりんまで来てくださったので利用者様が次々太鼓をたたくことができ大いに楽しませて頂きました。バザー参加の時には、地域の方から「こんなに多くの施設があったとは知らなかった」と声をかけて頂き、りんりんを知って頂くよい機会となりました。中学生の職業体験では孫ほどの学生との交流は利用者にとって楽しい一時でした。



2018年度上半期総括

1 利用者様の満足度調査に基づき利用者様の要望に沿うサービスの提供に努めている。医療行為を提供している12人の利用者様の中で、これまで法的にヘルパーに求められている以外のネブライザーなどの要望が出ている。私達はあくまでも法内のサービスの提供以外は実施できないとお断りしている。しかし災害時の対応については検討が必要ではないかと考えている。

2 利用者様一人一人に対応するヘルパー会議を開き情報の共有化に努めている。これまで、48人の利用者の中で20人の会議を行いました。利用者ごとのサービスの仕方、医療行為等の確認、活動記録の書き方等、基本を細かいところまで再確認し、よりよい介護の方法を出し合いお互いの学びの場になっている。ヘルパーからお互いのスキルアップにもつながり仕事がしやすいと好評です。

3 ヘルパーが働きやすい環境を作り出すためにアンケートに基づく改善を図ってきた。また更新時面接にアンケート内容に基づき、家庭環境や身体状況を踏まえシフト調整等行っている。今年度もアンケートを実施する。



▲食事介助をするヘルパーさん

4 法人内サービスを複数利用される利用者様が増えている。(ネットワーク8人、りんりん6人、相談支援10人)

利用者様へのより行き届いたサービスの提供のため、事例検討会等重ねながら、お互いのケアを振り返る場を作っていきたい。

5 サービス提供責任者の職務を軽減することが課題になってきている。現在4人のサービス提供責任者がその職務にあたっているが休日出勤など過重な勤務体制になってきている、またヘルパーを求める新利用者の依頼にはほとんど対応できず断り続けているのが現状。ヘルパー確保とともにサービス責任者の増員も必要です。

● 下半期の課題 ●

- ☆今年度の利用者満足度調査を行いより一層の行き届いた介護の提供に努める。
- ☆医療行為の災害時対応については医療関係者と協議しながら可能な限り進める。
- ☆利用者単位でのヘルパー会議はこまめに、参加しやすいよう工夫しながら進める。
- ☆法人内事業ごとの交流についてはその目的に沿って有効な結果を引き出せるような十分な検討のもとに進める。
- ☆サービス責任者を増員する。



S君との活動を振り返って ～移動支援～

ヘルパー 佐川敏明

S君を担当して4年が経ちました。本年より1日の活動が加わり初回は江ノ島に行きました。電車内では大変おとなしくマナーのよいS君です。迷子にならないようか？常に私の事を確認します。堤防で波が頭からかかった時2人で大笑いしました。

最近のS君は、顔つきも大人っぽくなり、体はとてもシャープです。変わらないのは元気なところと運動量と食べる事、おしゃべりは少なくなり少し心配です。

現在取り組んでいることは、歩行時の安全確認（交差点で立ち止まり安全を確認すること）食事において、良く噛む・ゆっくり食べる。会話では、木の名前や挨拶・少しでも会話として成立するよう取り組んでおります。S君は音楽も大好きです、好きなアーティスト・曲をリクエストできます。



エピソードとして、歩きながら木の名前を当てる事をよくやっています。もみじ・さくら・イチョウの木等。ある時、「好きな音楽何」と聞いたら「きんもくせい」と答えたので、「それは木の名前でしょ・・・曲だよ」と言うと、S君がスマホ（佐川のスマホ）で検索をしたところ（S君スマホで検索ができます・・・ビックリ）確かにアニメ「あたしんち」の挿入歌でありました。S君ごめんなさい！

最後に、S君高い所が好きなようで、都庁展望台に行った時一目散に窓へ行き窓の下を楽しそうにしばらく覗いていました。雨の日活動では、これまた好きな多摩モノレールに乗ります。前列を陣取り歩いている時はうつむく事が多いがモノレールに乗っている時は顔を上げ、前をしっかりと見えています。

こんなに素敵なS君と一緒に活動させていただき、毎回会うのが楽しみです。これからもS君とともにヘルパーとして成長していけたらと思っています。

◆ S君の紹介 ◆

平成8年6月生まれ22歳男性。

中度知的障害・広汎性発達障害。小学校の頃より自閉的な傾向が強く在宅での生活が難しくなり他市ショートステイの利用を繰り返し過ごされる。数年前、府中市内グループホームへ入所される。支援学校高等部を卒業され平日は福祉作業所へ通所。週末は公的サービス2事業所を併用し外出されている。

★ S君の支援目標 ★

- ①安全な外出の機械を確保し心身のリフレッシュを図る
- ②外出により社会性を身に着ける

※紙面が限られているために、佐川さんのレポートの全てを掲載することができませんでした。あいあいブログに全文載せていますので、こちらをご覧ください。





わの会研修事業の上半期総括



▲2018年7月の重訪研修の研修生たち

今期は、5月、7月と2回実施し19人が重度訪問介護従事者として資格を得ている(都知事認証)、受講者の受講理由は「土、日の講座なので受講しやすい」「他と比べ受講料が安い」または、市内の介護事業所が人手不足から受講料を負担して受講を勧めているところもある。「本気で重度障害者について学びたい」と既に介護にあたっているヘルパーや看護師の参加も見受けられる。講師陣に、訪問看護ほっとステーション

のスタッフの皆様や関谷先生(白梅短期大学名誉教授)、難病ALS患者として24年目の佐々木公一当法人理事長の講義などをプログラム化している。魅力的な講座になっていることが、参加者のアンケートより感じ取れる。研修事業を担当するスタッフが2人になったことで準備やまとめ、振り返りが可能になり、事業展開がスムーズに行われている。

● 下半期の課題 ●

1月26日～27日、3月16日～17日を予定している。さらに昨年より再会したガイドヘルパーの資格取得講座を今年度も実施する予定。すでに他事業所より問合せを頂いている。これまでに他事業所より問合せを頂いている。これまでに参加されている学校、介護事業所等のご協力を頂きながら、担当スタッフの広報や、関係者訪問を行ない、1人でも多くの介護者をふやし必要としている方々のサービス提供に努めていきたい。



相談業務は事例に学びながら、振り返りながら

わの会相談支援は2018年4月時点で登録48人、月平均16件の計画作成・モニタリングを行っていましたが、10月時点で登録62人、月平均19.8件の計画作成・モニタリングを行うようになりました。わの会につながったルートとしては、ご本人・ご家族からの作成依頼と、事業所からの作成依頼が同率で多く、次に行政(市役所)からの依頼、病院からの依頼がありました。障害種別としては精神の障害が半数以上あり、次いで身体、知的、児童の順です。ありがたい事に口コミで「わの会さんに」というケースが多いのですが、他所で断られて回ってくるケースもあり、相談事業所がまだ足りていないと感じます。府中市の計画作成率は5割で、内訳を見てみると知的・身体のセルフプラン率(=計画相談がついていない)

が高く、これらの障害は児童の頃よりご家族が福祉サービスをセルフマネジメントしてきていることが考えられます。しかし、親の高齢化に伴い、本人が一人でも暮らしていけるように計画相談の利用を事業者や市役所などから進められるケースが多いようです。他市、他県から府中療育センターに入所されている方の計画相談の依頼もあり府中市の地域特性を反映しているものといえます。

● 下半期の課題 ●

相談者が増えることで、事務量や連絡、国への請求事務が増えてきました。相談員を増やし、お互い協議しながら、チームとしての相談業務を行えるようにすることが課題となりました。それらの体制作りが必要です。



わの会30年度上半期総括会議 ～より良い介護のため、失敗に学ぶ～

NPO法人わの会理事会事務局長 佐々木節子

10月27日わの会は半期総括会議を行いました。この会議はそれぞれの事業の到達と課題を明らかにすること、と共に介護または自立支援において様々に生じる失敗にしっかり向き合い、行き届いた介護、支援事業を創り出すことを目的に行われました。

わの会全体の事業におけるヒヤリハットは(26)、事故(27)、苦情(55)と少なくありません。中には大きな事故につながる可能性を含んでいるヒヤリハットもあり、不本意ながら利用者様の尊厳を傷つけてしまうような事故、そして不信感を持たれてしまうような苦情も残念ながら在ります。このような事態がなぜ生まれてしまうのか、どうすべきだったのか原因はもちろん事故再発防止のための対策を明らかにすることでした。そのために通所介護りんりん、訪問介護あいあいからは事例をあげて検討しました。事例検討の方法として「失敗学のすすめ」著者畑村洋太郎に学び、6つの領域に分析するやり方を試みました。

最後に当法人の理事であり白梅学園大学の

名誉教授関谷榮子先生から、失敗の種類10類についての紹介があり私たちは失敗を振り返って考えることをより深く学ぶことが出来ました。

総括会議を経て私が学んだことは一つのテーマを全体で学習するということは、わの会として初めての取り組みでもあり、必ずしもすべてが明確になったわけではなかった。それでも失敗に対してはその原因を余すことなく深くつかむこと、対策は可能な限り隙間なく打ち立てること。そのためには事故起因者を責めないこと、何でも話せる職場の雰囲気があること、スタッフが仲がいいこと、言い換えればコミュニケーションが豊かな職場であること、もっと突き詰めれば民主的、と言える職場でなければならないことに改めて気づかされた。しかし一方では介護を取り巻く状況は益々厳しくなっています。そのことを踏まえつつ、スタッフと共に事故撲滅と同意語である行き届いた介護、支援の構築のために一段の努力をおしんではならないとの思いに駆られました。



感想



☆一つ一つの事例は違う内容でしたが、どの失敗談も私個人でも起こしうるものだったので他人事とは思えず聞いていました。特にりんりんの事例とその後の関谷さんの講演には身の引き締まる思いでした。自分は大丈夫という日頃の慣れ・油断から失敗を引き起こすのかも事例を聞きながら感じました。(ヘルパー 西山香織)

★この事例だとりんりんではどうするのだろう？またりんりんの事例に対し、皆さんはどんな意見をお持ちだろう？などなど行き詰った時の意見交換の場がもてたら、利用者さんやご家族やスタッフにとって良いわの会になるのではないかと思います。

関谷先生からのご意見で…りんりんに来た時、スタッフが記録に追われているのか対応が凄く冷たく感じるといわれハッとしました。自分に心当たりがありました。どなたでも来やすいに雰囲気にしてくださいと言って頂いた事、沢山の人がいる中でりんりんを指摘することは嫌なことだったと思います。関谷先生のりんりんに頑張っ欲しいという気持ちが凄く響きました。ありがとうございました。(りんりんスタッフ 菊地摩由香)

四谷の古びてガランとした一軒家の思い出

秋田 顕治



私が「府中地域福祉を考える・わの会」(以後わの会)に入職したのは、「わの会」発足1年が過ぎた頃だったと記憶しています。入職時は公費助成を申請中で、決定は3か月後のため、佐々木会長がその間の運営費を立替えるという不安定な状況でした。(3か月後、無事運営費も確保され皆でホッとしたことを憶えています。)

初めて飛び込んだ福祉の世界で、福祉の何たるかもわからない私は、佐々木ご夫妻、運営委員の皆さんからアドバイスを頂き、試行錯誤しながら、四谷の住宅街の古びてガランとした一軒家の事務所で、活動を周知するための会報の作成と会員のニーズの掘り起こしからスタートしました。現在、介護タクシーが普及していますが、当時は障害を持った方が安心して利用できる設備の整った車両が不足していたため、「移送サービス」を望む声が多く、私の自前の車と、障害を持った方が個人で運営していた「遠山移送サービス」の協力を仰ぎながらの2台体制で「移送サービス」を開始しました。

その後「日本財団」の車両助成を申請し、リフト付きの車両が納車されたときは、事務局全員で大喜びし、重度の障害を持った方の移送サービスの対応や、日帰り旅行が計画できるようになるなど、少しずつ活動の輪が広がっていくと同時に、利用する方も口コミで増えていきました。

また、障害者自立支援サービス事業にも取り組み、「料理講習会」や「食事会」、「ワープロ教室」、「パソコン教室」等々、四谷の事務所を起点に様々なことを試行錯誤しながら企画しました。その中で、佐々木会長のご自宅で「リサイクルショップわの会」を開店したのも思い出されます。

開店前に皆で他の店を見学して回り、看板を自作し、チラシをまいて商品を集め、あまり売れずに悩み…と手作り感満載で、楽しみながら取り組んでいたのが思い出されます。

たくさんの方の協力に支えられながら少しずつその輪を広げていった「わの会」でしたが、当時飽き性の私は、違う世界を見たくなり職を辞しました…が、紆余曲折後、佐々木節子さんが創設された「西府結の家(現:作業所スクラム分室)」の施設長になったのは、やはり不思議な御縁と、障害者福祉という大きな輪の中にいるのを感じています。「目立たないけれど、障害を持った方の杖となるような活動を目指したい。」最初の会報にそんなことを書いた記憶があります。

皆が皆の心の杖となり、支え合って大きな輪をつくっている、皆で支え合う「わの会」の今後の益々のご発展をお祈りしています。

秋田顕治さん(設立当初の事務局長)

秋田さんは、わの会が産声を上げて誕生してから、約4年事務局を担ってくださいました。親心のような思いでヨチヨチ歩きのわの会を前にひっぱり、今日の土台を築いてくださいました。わの会を退職されてからも、障害支援というレールの上を歩んでおられて目指すことはお互いに共有できていると思えるこの頃です。心からの感謝を申し上げます。（佐々木公一）